

➤ 県内にある「知的障害児入所施設」は両学園のみ

【施設の機能】

- ① 知的障害児への入所サービスの提供
(発達支援、自立支援、社会的養護の実施)
- ② 知的障害児への在宅サービスの提供
(地域支援(短期入所、日中一時支援等)の実施)



黒部学園



砺波学園

	開設年	建物		定員	R8入所児童数 (うち措置)	職員数 (常勤換算)
		竣工年	面積			
黒部学園	S32	H20	3,365㎡	50人	18人(12人)	約51人
砺波学園	S37	H1	2,368㎡	50人	18人(14人)	約49人

➤ 砺波学園の施設が竣工後36年経過

- ① 施設の構造上、国が推奨する“小規模グループによる支援”が難しい
(個室化やバリアフリー化等がなされておらず、良好な家庭的環境の実現には限界がある)
- ② 老朽化により、維持管理・修繕費の増大が懸念



相部屋（プライバシーなどが確保されていない）



狭隘なトイレ（身体障害者用トイレがない）

入所児童の学校教育環境について

- 現在、両学園とも特別支援学校が隣接しており、学園職員及び学校教員が連携して送迎、支援を行っている。
- 黒部学園に隣接しているにいかわ総合支援学校には、地域に暮らす知的障害児も通学している。一方、となみ東支援学校は砺波学園の入所児童のみが通学している。
- となみ東支援学校には高等部はなく、中学部卒業後は、スクールバスでとなみ総合支援学校へ通う(ただし、生徒が落ち着いた状態でバスに乗車できない時は学園で日中活動を行う)。

学校名	R8.4児童生徒数	学部
にいかわ総合支援学校	173人	小学部、中学部、高等部
となみ東支援学校	11人	小学部、中学部